

第 5 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.01
	平安			

[問題 1]

8 世紀後半、()天皇は都を今の京都に移しました。この都を平安京といい、これから約 400 年間は平安時代という。

- (1) なぜ都を移したのか、理由を答えよ。
- (2) 文中の()にあてはまる語句を答えよ。
- (3) 平安京に都を移した年を答えよ。

[解答欄]

(1) 貴族や僧の争いが激しくなり政治が混乱したため、新しい都で政治を立て直そうとしたから。

(2) 桓武 (3) 794 年

[解説]

奈良時代:貴族や僧の争いが激しくなり政治が混乱
↓
新しい都で政治を立て直すために、
794年 桓武天皇、平安京(現在の京都市)に都を移す

奈良時代、律令制度が行きづまり、さらに朝廷では皇族・貴族の勢力争いが激しくなり、僧も政治に口出しするようになった。

桓武天皇は律令政治を立て直すために、794 年、都を平安京(今の京都市)に移した。

そのさい、仏教を政治と切り離すために、奈良にある寺が平安京に移ることを禁じた。

(鳴くよ(794)ウグイス平安京)

[問題 2]

794 年、桓武天皇が都を移した場所を右の資料中のア～ウから 1 つ選び、記号を書きなさい。

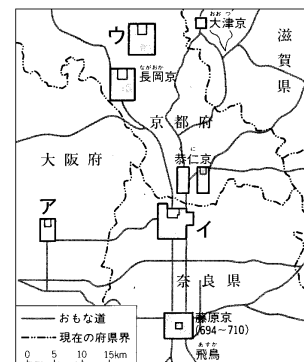
[解答欄]

ウ

[解説]

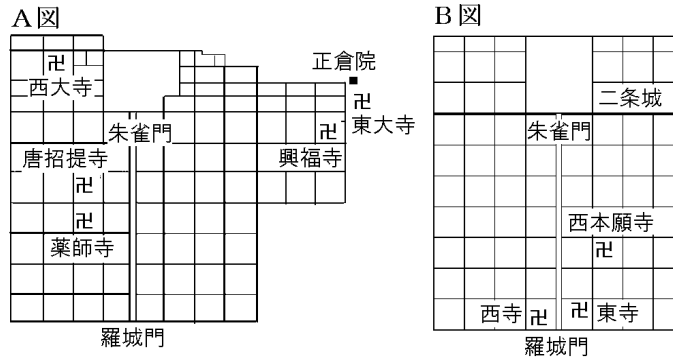
平安京は、現在の京都市で、琵琶湖の南端の西側のウの位置である。

アは難波京、イは平城京である。



[問題 3]

平安京の地図は A、B のどちらか。



[解答欄]

B

[解説]

A は奈良時代に聖武天皇が建てた東大寺や、鑑真が建てた唐招提寺があるので平城京であると判断できる。B が平安京である。

[問題 4]

次の文の①、②に適語を入れよ。

桓武天皇は、東北地方の(①)を支配するために、(②)を征夷大將軍に任命して大軍を送った。

[解答欄]

①蝦夷

②坂上田村麻呂

[解説]

桓武天皇
東北地方へ支配を拡大するために、
坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命
↓
蝦夷はアテルイを指導者として抵抗

奈良時代のころ、律令国家の支配が及んだのは関東地方までであった。

東北地方に住む人々は、朝廷から異種の文化をもつ異民族あつかいされ、蝦夷とよばれた。

(九州南部に住む人々も異民族あつかいにされ、隼人とよばれた。)

朝廷はしだいに東北地方への支配を拡大していったが、これに対し蝦夷の人々は、アテルイを指導者として激しく抵抗を行った。

桓武天皇は、坂上田村麻呂を征夷大將軍に任命して、4 万の大軍を送ってアテルイの軍を降伏させ、支配を拡大させた。

[問題 5]

次の表の①～⑥に適語を入れなさい。また、a、b の場所を右の地図のア～エから選びなさい。

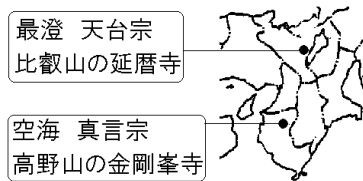
人物(開祖)	宗派	寺院	場所
空海(弘法大師)	(③)宗	高野山(⑤) 寺	a
(①)(②大 師)	(④)宗	比叡山(⑥) 寺	b



[解答欄]

①最澄	②伝教	③真言	④天台
⑤金剛峯(金剛峰)	⑥延暦	a ウ	b ア

[解説]



奈良時代に仏教が政治と結びついて腐敗したため、桓武天皇は僧侶の資格を厳しくするなどして、それをあらためようとした。これに応じて仏教界にも改革の動きがおこった。

最澄と**空海**は、教典の研究を中心とする奈良仏教にあきたらず、仏教の本来のあり方を求めて修行を重ね、遣唐使にしたがって唐に渡った。

帰国後、**最澄**は比叡山に**延暦寺**を建てて**天台宗**を、**空海**は高野山に**金剛峯寺**(金剛峰寺)を建てて**真言宗**を広めた。

[問題 6]

9 世紀はじめに最澄と空海によって仏教の新しい宗派が伝えられたが、その特色にあてはまるものを次から 1 つ選べ。

- ア 各地で阿弥陀堂がさかんにつくられた。
- イ 念仏を唱えて阿弥陀仏にすがることとをいいた。
- ウ 人里はなれた山奥の寺で学問や厳しい修行を行った。
- エ 国ごとに国分寺と国分尼寺がつくられた。

[解答欄]

ウ

[問題 7]

次の文を読んで、各問いに答えなさい。

9 世紀の中ごろになると、藤原氏は他の貴族をしりぞけて勢力を伸ばし、娘を天皇のきさきにしてその皇子を天皇とし、天皇が幼少のときは(ア)、成長してからは(イ)という職について政治の実権をにぎった。

- (1) 文中の()にあてはまる語句を答えなさい。
- (2) 下線部について、この政治を何といいますか。
- (3) 下線部について、藤原氏の勢力がもっとも強かった時の父子の名前を答えなさい。

[解答欄]

(1)ア 摂政	イ 関白	(2) 摂関政治	(3) 藤原道長、藤原頼通
---------	------	----------	---------------

[解説]

藤原氏の	摂関政治
天皇が幼いときは	摂政
天皇が成人すると	関白
11世紀 最盛期	藤原道長・藤原頼通 (平等院鳳凰堂)

他の貴族をしりぞけて勢力を伸ばした藤原氏は、自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた皇子を、小さいうちから天皇に立て、天皇の外戚(母方の親戚)として勢力をふるった。

天皇が幼いときは、**摂政**、成人してからは**関白**の職につき、政治の実権を握った。

これを**摂関政治**という。藤原氏は 11 世紀の頃の**藤原道長**とその子**藤原頼通**の時代に全盛期を迎えた。

藤原道長は 4 人の娘をつぎつぎに皇后や皇太子妃とし、30 年にわたって権勢をふるった。

(威令広(1016)まる道長さん) その子頼通は 3 天皇 50 年間にわたって摂政・関白をつとめた。

頼通は、**浄土信仰**の影響を受けて、宇治に**平等院鳳凰堂**をつくった。

[問題 8]

関白の地位にはじめてついたのは誰か。

[解答欄]

藤原基経